

「笠利小学校の八月踊り・島唄伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立笠利小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計50人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年4月～令和5年3月 総合的な学習の時間

（本校多目的ホール，運動場，体育館）

令和4年9月22日（木）運動会発表リハーサル（本校運動場）

令和5年3月17日（金）卒業式発表リハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年10月2日（日）秋季大運動会（本校運動場）

令和4年11月9日（水）奄美市小・中学校音楽発表会

（奄美市文化センター）

令和4年11月12日（土）学習発表会（本校体育館）

令和5年3月23日（木）卒業式（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「八月踊り（はちがつおどり），島唄（しまうた）」

(2) 由来

奄美には冠婚葬祭などの催しには必ず唄がある。裏声を多用し三味線よりも小ぶりの三線（さんしん）の伴奏により，その集落や生まれ育った所である「シマ」に伝わる島唄である。また，八月踊りは旧暦の八月の丙から，三日踊って（アラセツ）三日休み，そしてまた三日踊る（シバサシ）という集落の全員が唄と踊りに参加する伝統文化である。

(3) 構成等

運動会では，全校児童が輪になって八月踊りの「偽装（衣装）踊り」「三度まけまけ」「赤木名観音堂」を唄いながら踊る。伴奏の三線，チヂン（太鼓）も子どもたち自身がたたく。最後は地域の方々も参加して「六調」を一緒に踊る。

奄美市小・中学校音楽発表会や学習発表会では，3・4年生が「行きゅんにゃ加那」を三線やリコーダー等を用いて演奏する。

卒業式では，別れの時に歌われる「行きゅんにゃ加那」を，三線の伴奏も子どもたちが担当して全校児童で卒業生に向けて唄う。

5 保存会や地域との連携の具体

本校児童が20人近く参加している大笠利わらぶえ島唄クラブは「島唄が好きな子どもを育てる」ことを目的に30年以上活動している。そのクラブの講師に指導をお願いし，すべての子どもたちに島唄を好きになってもらうこともねら

いの一つとして活動に取り組んでいる。

また、シマ（地域）によって節回しや歌詞に違いがあることなどを理解させることで、自分の生活地域での八月踊りなどの活動への意欲的な参加を促している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

運動会や卒業式に披露する島唄ばかりでなく、地域に伝わる様々な島唄の歌詞を子どもたちに分かりやすいように説明していただいたり、練習の中で歌ったりしている。シマグチの表現やシマに伝わる風土・文化・伝承などをいろいろな角度から子どもたちに伝え、子どもたち一人一人に、郷土（シマ）に対する誇りと自信をもたせるように工夫している。

7 取組の様子



【運動会で口上を述べる児童】



【チヂンをたたき、島唄を唄い踊る児童】



【運動会で三線を演奏する児童】



【学習発表会で三線を演奏する児童】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 私が一番楽しかった演奏は「行きゅんにゃ加那」の演奏です。なぜかと言うと三線が音楽発表会より、上手に演奏できたからです。もっと上手に演奏できるのだと自信がわきました。これからもいろんな島唄を演奏できるようになりたいです。 【3年生児童生徒】
- 子どもたちの周りには様々な娯楽が溢れているが、八月踊りや島唄についてもこの地域では色濃く残っている。子どもたちが大人の私にも教えられくらい率先してこの活動に取り組んでいる。特に高学年の児童の島唄は熟練しており感動した。地域の方が何度も来校して指導に来てくださるおかげである。 【教職員】
- 三線は大人でも難しいのに、演奏がそろっていてすごいと思いました。 【保護者】